

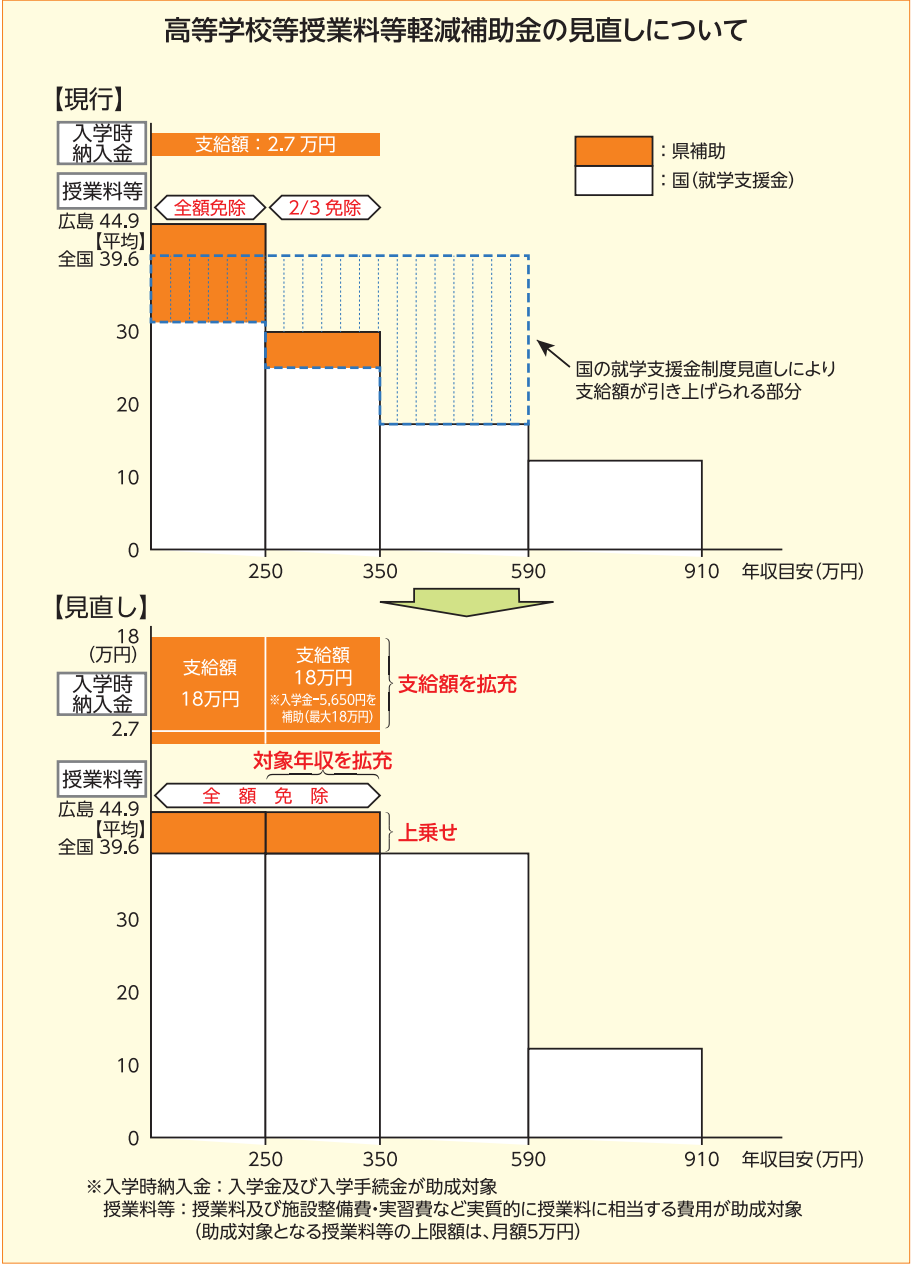
私立高校授業料に県独自の上乗せ補助が実現

今年度から国の制度による私立高校授業料の実質無償化がスタート。広島県の私学の授業料の平均額は全国平均より高いため、国が年収に応じて定めた額に県独自に上乗せ補助することになりました。併せて入学金への助成制度も県独自で実施します。公明党県議団の要求が実現しました。



危険な横断歩道の廃止に奔走 弘億団地

坂道で道路がカーブする地点にあり横断するには危険が伴うと地元住民の方々から指摘されていた横断歩道を廃止しました。地元町内会の意見調整や児童の通学路変更、地元警察署や区役所との折衝など多くの課題をクリアするため奔走し結局2年かかりました。関わってくださった多くの関係者の皆様の尽力の賜物です。



県議会公明党ニュース

発行：公明党広島県議会議員団 担当者：栗原俊二
住所：広島市中区基町10-52 連絡先：082-513-4660 s-kurihara@gikai.pref.hiroshima.jp

＜皆さまのご意見ご要望をお聞かせください。＞

2020年度 予算要望書を提出

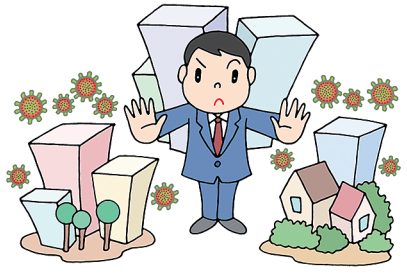


公明党広島県議団(栗原俊二団長)は、令和元年12月、湯崎英彦知事に対し、新年度予算編成に関する要望書を提出しました。重点項目では、「防災・減災・復興」施策の充実、子どもの未来を応援する施策の充実、被爆建物「旧広島陸軍被服支廠」の保存と活用策の推進を要請。特に、旧被服支廠については「3棟全ての保存を」と求めました。そのほか、広島高速5号線と高速2号線の早期接続、がん治療に伴う医療用ウィッグ(かつら)などへの助成、高齢者の先進安全自動車の利用促進と購入費助成——など計111項目を要請しました。

2月定例県議会

一般会計予算など71議案を可決

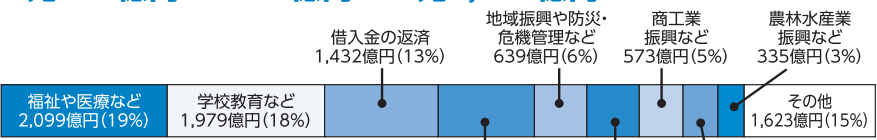
◆広島県議会は2月定例会を2月20日から3月17日までの27日間の会期で開きました。今回の定例会では、「令和2年度一般会計予算」や「新型コロナウイルス感染症対策の強化等を求める意見書」などの議案を審議。最終日には、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に迅速かつ適切に対処するための追加補正予算案が提出され、合わせて71議案を可決しました。



令和2年度一般会計予算等の概要

創造的復興を強く推し進め、欲張りなライフスタイルの実現に取り組むため、国の補正予算を活用した令和元年度2月補正予算と一体的に編成。

〈当初予算〉 〈令和元年度2月補正予算〉 〈総額〉
1兆905億円 + 103億円 = 1兆1,008億円 (対前年度比 457億円増)



《主要な施策》

◆創造的復興による新たな広島県づくり 計1,087億円

平成30年7月豪雨災害からの一日も早い復旧・復興に向け、創造的復興による新たな広島県づくりに、引き続き最優先で取り組む。(安心を共に支え合う暮らしの創生、未来に挑戦する産業基盤の創生、将来に向けた強靱なインフラの創生、新たな防災対策を支える人の創生。)

◆欲張りなライフスタイルの実現 計264億円

- ◎デジタルトランスフォーメーションの推進 (主な関連事業含む計47億41百万円)
- ◎希望をかなえるための後押し 県立広島大学改革推進事業(45億61百万円)など
- ◎ゆとりの創出 地域産業IoT等活用推進事業(6億2百万円)など
- ◎地域活力の基盤づくり 多文化共生の地域づくり支援事業(50百万円)など
- ◎暮らしを楽しむ機会の創出 東京2020オリンピック聖火リレー等実施事業(1億37百万円)など
- ◎広島の価値の共鳴・共振 国際平和拠点ひろしま構想推進事業(2億42百万円)など

令和元年度3月補正予算【新型コロナウイルス感染症緊急対応予算】

感染拡大防止策と医療提供体制の整備、事業活動の縮小や雇用への対応、学校の臨時休業に伴って生じる課題への対応など、迅速かつ適切に対処。(計19億10百万円)

栗原俊二議員の活動紹介

公明党広島県議団
フォトニュース



公明党県議団が広島県警に対して早期配備を提案していた可搬式の速度違反自動取締装置が昨年10月から運用を開始しました。

(令和元年12月)



新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、広島市が市立小中学校を臨時休校としたことを踏まえ、同市安佐南区の「シダックス放課後児童クラブ山本」で関係者から現場の課題などを聴取しました。

(令和2年3月)



広島県女性総合センター「エソール広島」を訪問。運営する財団法人の長尾ひろみ理事長と意見交換しました。

(令和2年3月)



公明党県議団が早期導入を求めている災害時に備えた乳児用液体ミルクの備蓄が始まりました。県の防災拠点施設の備蓄状況を視察しました。

(令和元年10月)



広島土砂災害から5年。広島市安佐南区の梅林学区自主防災会連合会が開いた式典に参列しました。

(令和元年8月)



赤羽一嘉国土交通大臣に同行して広島市安佐南区八木で建設が進む砂防施設を視察しました。

(令和元年10月)



一昨年7月の西日本豪雨により、一部区間で不通となっていたJR芸備線が約1年3カ月ぶりに全線で運転を再開しました。

(令和元年10月)

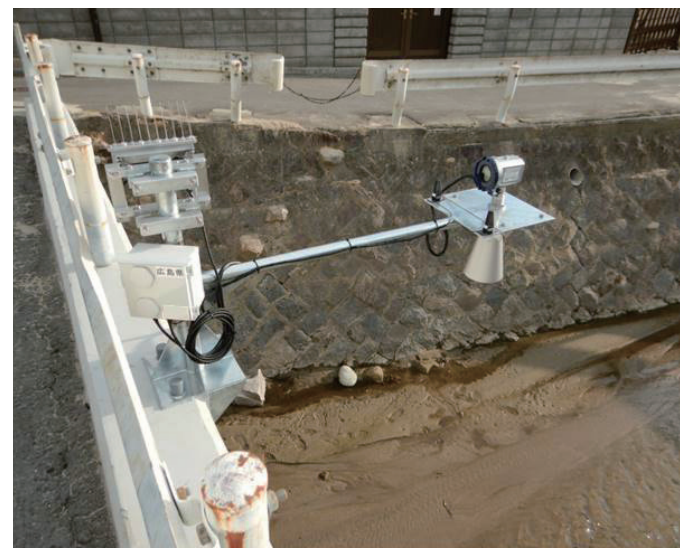
災害に強いまちづくり・人づくりが前進

河川監視カメラ 安川・危機管理型水位計 山本川 設置

「豪雨で増水した河川の水位をいち早く知り、逃げ遅れを防ぐ対策を！」

栗原俊二議員は、西日本豪雨災害を踏まえ、中小河川の水位監視強化を求めました。この提案を受けて広島県は危機管理型水位計や河川監視カメラを順次設置することとしましたが、このほど広島市安佐南区の安川に河川監視カメラが設置されました。今年度中に同区の山本川に危機管理型水位計が設置される予定です。

いずれの情報もインターネットの「広島県河川防災情報システム」で確認できます。



今年度中に山本川に設置予定の危機管理型水位計
(広島県提供)



安川に設置された河川監視カメラ (広島県提供)



安川監視カメラの映像(「広島県河川防災情報システム」より)

「マイ・タイムライン」を学校教育に導入

栗原俊二議員は、避難が必要な災害が予想されるとき、個人としてどう行動するかを時系列で記入する「マイ・タイムライン」の普及を求めました。この提案を受けて、今年度から県内の全ての小学生に作成の手順をまとめた教材を配布し活用することになりました。これをもとに家族で避難計画を作成するなど家族ぐるみの防災意識向上が期待されます。



「ひろしまマイ・タイムライン」のイメージ(広島県提供)